

第5回 富士見市文化芸術振興委員会議事録

日 時	平成30年7月9日（月） 18:40～20:00						
会 場	鶴瀬コミュニティセンター 第3集会室						
出席者	加藤	氣賀澤	高野	上川	吉川	野村	岡島
	○	○	○	○	○	○	×
	水野	肥田	関（知）	田中	長坂	関（仁）	渡邊
	○	○	○	×	○	○	○
事務局：地域文化振興課 中嶋課長、佐藤、武井							
1	開 会						
2	委員長挨拶 加藤委員長						
3	議 事						
	協議事項については下記のとおり。						
	(1) 基本目標1「育む」について						
	委員) 資料6ページの修正後の取り組みの方向について2点。1点目が (4) 富士見市育ちのアーティストの養成と指導者としての活躍の場の提供とあるが、基本目標4「支える」の施策の柱3【指導者の確保・育成、アーティストの活用】と内容が重複しているように感じる。						
	2点目に同じく(4)について、「富士見市育ち」とあるが在住を指すのか、出身地を指すのか曖昧な表記になっているのではないかと。						
	事務局) 重複している部分については、改めて事務局で見直し、庁内委員会でも検討を行う。						
	委員) 改めて検討ということだが、その内容はどのように行うのか。						
	事務局) まずは事務局で内容の検討、必要であれば修正を行い、庁内委員会にかける。その結果をもって振興委員会で報告する。						
	委員) 資料5ページの修正後の取り組みの方向について、(1) 富士見市民文化祭の充実とあるが、既存の団体の高齢化が起きている。充実させるには、若い人を自ら参加させるにはどうしたらいいか検討していくべきである。						
	事務局) 現状、市内の学校ブース出展や職員合唱団による市民音楽祭への参加を含め、取り組みを始めているところである。一気に変えるには難しいが少しずつ若い世代がまずは参加する側で入ってきてもらう取り組みを行っているところである。また、昨年度から取り組んでいる富士見市の文化芸術を支援する会など市民の立場から文化芸術を提供する側として事業に参加してもらうなど新たな試みを開始しているところである。						
	委員) 同ページの修正後の取り組みの方向について、(3) 文化芸術活動の全国的なコンクールなどへの参加支援の検討とあるが、実現するためには各小中学校の合唱部や吹奏楽部等のレベルの引き上げが必要になる。これにはかなりの予算がかかるがその裏付けはあるのか。						

事務局) 文化振興基金の利用を考えているところである。あくまで事務局内での検討であるが、まずは市内学校などの教育機関へ文化芸術の全国的なコンクールへの参加補助を使い道として考えている。補助金を出すための一定のルール決めは必要だが、それも含めて現在事務局や庁内委員会で他市の事例を集め、検討を始めた状況である。ルール決めに関しては、振興委員会でも内容を議論していきたいと考えている。

委員) 資料6ページの修正後の取り組みの方向について、(4) 富士見市育ちのアーティストの養成と指導者としての活躍の場の提供とあるが、市内には指導者として関わりたいという思いを持っているアーティストが相当数いると感じている。市内在住のアーティストとして知ってもらう機会が少ない。指導者のネットワークが市と協働で作っていけると指導者同士の繋がりやそれを活かした新しい事業へ繋がるのではないか。周知方法もホームページなどを利用していくといいのではないか。

事務局) ネットワークにあたるものとして、市では人材バンクというものを設けている。周知方法などを見直し、更なる利活用やより多くの人に見てもらおう方法を検討する必要がある。

委員) 富士見市にいるアーティストの繋がりを分野ごとに分け、具体的にやっていく必要があると感じている。

事務局) 持ち帰り検討するが、プロやセミプロ、アマチュアなどアーティストの線引きが難しいのではないかと感じてはいる。

委員) 民謡などの伝統芸能に触れる際も、学校によって民謡団体を呼び目の前で見せるところもあれば、CDで聴く場合、文書での説明に留まる場合と様々である。先生や環境も違うため、それらを踏まえてアーティストの紹介は検討していく必要がある。

委員) 資料8ページについて、地域の伝統文化としてお囃子や獅子舞などが挙げられると思う。これについては、現状教育委員会から補助金が出ているが、ここでも参加者の高齢化が進んでいる。伝統文化を残すために、行政と文化団体が協力して工夫できるかが課題である。団体の規模が小さいと予算規模も小さくなるが、それをコーディネートすることで、団体を一つにまとめるなどし、予算規模を大きくしていくことも必要になるのではないか。

事務局) 文化芸術振興基本計画が見直されるタイミングで所管課とは取り組みの方向性を共有する。発表の場の提供、担い手の育成については事務局より庁内委員会で所管の課に共有し方向性を定めていく。

(2) 基本目標2「繋ぐ」について

委員) 基本目標2に関しては、公民館や交流センターの話であると思うが、現実的に職員の人手が足りないのではないか。やりたいと思っても手が回らない。公民館等で開催した講座を通じてサークルを作り、市民が主体になっていかないと新たな事業を企画するというのは難しいのではないか。

事務局) 事業を開催しサークル化という取り組みはこれまでも行ってきた。新たに何か始めるということだけではなく、今実施しているものを広げられる体制も必要と考えている。しかし、現実問題として、新しいサークルを作っても施設が飽和状態で空きがないことも確認している。施設の空き状況も見ながら職員が団体をコーディネートしていく仕組みが必要だと考えている。

委員) 市内には様々なサークルや団体があるが、横の繋がりの形成が難しい。

事務局) 確かな数字ではないが市内には1,000近くサークルや団体があるというのを聞いたことがある。このサークルや団体の交流は公民館等での文化祭という形で実行委員会形式をとって市民主体で進められるように工夫しながら進める必要がある。

委員) 青少年育成市民会議では、青少年の歌を市内小学校で歌ってもらったり、オペラ鑑賞を行ったりしているところである。子どもが文化芸術に触れられる機会を作って来てもらうだけではなく、こちらから出向いてその機会を作ることも大切ではないかと感じている。

事務局) 小学校合唱部への指導者派遣事業を市では行っているところであるが、昨年度は先生の異動で1校合唱部自体がなくなった。市としては、すべての小学校に合唱部を作ってもらい、指導者派遣の謝礼金の補助という形で支援を行いたいと思っている。しかし、現実的に先生の負担も大きく学校側として事業の継続が難しい場合もある。学校として連携して行っていくものに関しては、学校とも確認しながら進めないといけない。

委員) 配布資料の13ページについて、修正後の取り組みの方向性の(3)市民・アーティスト・民間企業等と連携した組織づくり・事業の推進とあるが、民間企業との実績はあるのか。

事務局) 富士見市の文化芸術を支援する会で市内の商工会加盟の事業所や医師会と連携している。またららぽーと富士見とポスター等の掲示やキラリふじみへの三井カードの提示での特典など、小さなことではあるが取り組みを始めているところである。アーティストとは、まだ連携は行えていない。

(4) 文化芸術振興基金の活用検討について

事務局) 改めて基金の活用について現段階での検討内容を伝えた。まずは小中学校を対象に考えていきたいがルール作りも踏まえて庁内委員会でも検討をしていくことを伝えた。委員からの意見は随時募集している。

委員) キラリふじみが完成から15年ほど経過しているが、修繕に使えないのか。

事務局) 改修には数億円を見込んでいる。一部を基金で補てんするという考え方はあると思うが、市民の文化芸術活動への支援のために使いたいと考えている。

(5) 今後の会議日程について

次回の会議日程について事務局より提案。

8月6日(月) 18:30～ 鶴瀬コミュニティセンター第3集会室